

第4回高松中心市街地プロムナード化検討会議 議事概要

1. 会議の日時及び場所

- (1) 会議名 第4回高松中心市街地プロムナード化検討会議
- (2) 日 時 令和6年8月8日(木) 午後2時から午後3時20分
- (3) 場 所 かがわ国際会議場

2. 出席委員の氏名

中村 英夫、西成 典久、佐藤 清志、北條 裕介、今西 照章、川崎 武文、堀川 満弘、
栗原 盾、古川 康造、藤本 重信、井村 久行、荻野 宏之、
坂野 花菜子(代理 片庭 浩輔)、谷田 和久(代理 仲西 勇雄)、次田 吉治、板東 和彦、
多田 仁、鈴木 通仁、海津 洋

3. 議事概要

(1) 新任委員について

- ・ 以下2名が本年度より新たに就任した。
 - ・ 高松中央商店街振興組合連合会理事長 古川康造氏
 - ・ 高松琴平電気鉄道株式会社取締役鉄道事業本部長兼運輸サービス部長 藤本重信氏
- ・ 人事異動等によって委員の交代を行った。

(2) 高松中心市街地のプロムナード化について

事務局から資料2について説明した後、質疑を行った。

【香川県旅客船協会 堀川委員】

県立アリーナとフェリー乗り場の問題になるが、これから県立アリーナで1万人規模のイベント等があったときに、県立アリーナとフェリー乗り場との間の車道を横断歩道で渡ると信号もないため危険であり、人が通ることによって車両の通行の妨げになる可能性があることから、県立アリーナとフェリー乗り場をつなぐデッキについて再度検討をお願いしたい。

JR高松駅からフェリー乗り場へは、屋根付きでコリドーが設置されており、非常に有効な歩行者動線になっていると感じている。そのため、高松港の高速艇乗り場から琴電高松築港駅や商店街までのコリドーの設置をお願いできたらと考えている。琴電高松築港駅まで伸ばしていただければ、歩行者が便利になると考えている。上下移動の問題については、エレベーターやエスカレーターなど、歩行者の利便性が確保できる対策を検討いただきたい。

【香川県バス協会 今西委員】

中央公園などの西側エリアと商店街を結ぶ番町交差点の平面化について懸念している。バス事業者にとって、バスの運行は安全・安心な運行というのが最優先され、加えて定時性も求められているところである。番町交差点がどのような横断歩道になるか分からない

が歩行者横断中は車両の通行がストップし、交通渋滞が発生するのではないか。また、信号が変わっても歩道上に渡り切れなかった歩行者が残ることが想定され、乗務員は歩行者の安全確認が必要になるため、乗務員の負担も増えてくることが想定される。関係者と事前に十分協議し、慎重に進めていただきたい。

【高松タクシー協会 川崎委員】

香川県バス協会と同様、タクシー協会としても番町交差点の平面化について懸念している。番町交差点はタクシーにとっても主要な幹線道路の一部となっており、この交差点を通過する際、横断歩道ができることによってこれまで以上に渋滞に巻き込まれ、利用者にとって運賃が上がる等の不利益を生じる可能性もあることから、慎重に検討をいただきたい。社会実験等を実施する際は一定の期間をしっかりと設けていただくことや今ある地下道をもう少し有効的に活用できないかの検討も進めていただきたい。

【事務局】

フェリー乗り場と県立アリーナをつなぐデッキについて、今後交通の流れや人の流れが大きく変わってくると想定しており、県立アリーナ開館までにデッキをつくるというのは見送ったところであるが、県立アリーナ開館後の状況を見ながら検討してまいりたい。

玉藻交差点を越えるコリドーについて、まずは玉藻交差点処理の円滑化を図りたいと考えており、現状の信号を確認すると、左折できるタイミングで赤のままになっている時間帯がある。その時間帯に左折矢印の信号を追加する対策について県警と一緒に準備を進めているところである。

番町交差点に関するご懸念について、道路の使い方を変えることによる交通渋滞や交通安全上の課題の解消に向けての検討が必要だと認識している。公共交通事業者の皆様とも協議をしながら検討を進めていきたいと考えている。

地下道をもっと使いやすくという観点も必要ではないかという点についても、検討していったらと考えている。

【香川大学 西成副委員長】

来訪者、旅行者の視点で意見がなかなか出てきにくいところもあろうかと思うので、もう少し大きなビジョンの中でお話を進めていく必要があるのではないかと感じている。

今回議論のテーマとなっているまちなか全体を周遊できるようにしていくというような政策は、日本全体で進んでいることであり、さまざまな先進事例で効果も認められてきているところかと思う。そのため、大きな方向性はその方向をみんなで見るといことがとても重要だと考えている。その中で個別に、ここは不便だというところはそのまま切り捨てるのではなく、十分な議論・検討と、あとは対策を立てていく必要があると考えている。

ある程度周遊できるというのがとても重要と考えており、ヨーロッパを見ていても一方通行ではなくて周遊できる、つまり行って帰ってくるのではなくて周遊できるというのが人間の心理的にも大事だと思う。

【四国旅客鉄道株式会社 北條委員】

3月にTAKAMATSU ORNEを開業し、この先もいろいろな開発ができてくるため、今回のテーマの回遊性と滞在性を増やしていくということが非常に大きな課題だと考えている。サンポート地区から商店街に向かって、休憩できるようなベンチや統一的なサイン等を設けて、歩きやすく歩いて楽しいものをハードとしてはつくるべきだと思う。

また、ソフトとしても、例えばクリスマス等のイベント時に全体として取り組み、打ち出すことで、歩いてみたいと思うようなこともできてくるかと思う。

【事務局】

まずは現状の歩行者の動きとして、どのように動いているのかを十分調査したいと考えている。それによって、どこにどういった課題があるのかを抽出し、それに対してどういった対策をしていくのかということは今後検討したいと考えている。

【シンボルタワー開発株式会社 栗原委員】

サンポートと中心市街地との連携は、シンボルタワーができた当初からの課題であり、何とか連携していけないかということを探索してきたところである。

説明資料の中にある今後の回遊性については、まさに目指すべき姿と認識しているが、これを実現するにはどういったことをしていけばいいのかなど、サンポートの完成した姿が見えてきた今こそ、早く具体的な中身の議論に進むことを期待している。

【高松琴平電気鉄道株式会社 藤本委員】

取り組みとしては非常にいい話だと感じている。特に回遊性、滞在性の向上ということで、まちなかにいろいろな方に来ていただいて、非常に賑わうという部分で意義があると感じている。鉄道事業者の観点からは、初乗り区間の利用が非常に多いと認識しており、瓦町まで回遊の圏内を広げるということであれば、公共交通を絡めた形で検討いただければありがたい。

【高松中央商店街振興組合連合会 古川委員】

サンポートのウォーターフロントの開発の際には、サンポートだけで完結するような計画ではなくダウンタウンとの連携をしっかりと取るような計画を今後つくっていただきたいという答申があったが、ようやくここに来て動き始めたという実感を持っている。これからいよいよ本格的にウォーターフロントと中心部の連携ということで皆様とも一緒に計画づくりをしていきたいと思う。

地価について、先般路線価の発表があり丸亀町だけが上昇していた。これはマーケット自体が商店街の存在価値を認め始めたのかと考えており、単に商業地の開発ということではなくて、居住者、生活者を集積させて、快適な都市空間の生活のブランド化を図ることが丸亀町の計画である。その背景の中で、サンポート地区を中心に一斉にいろいろな事業が動きだすため、おそらく向こう30年から50年、100年を決めるような大切な時期に来ていると私どもも自覚しており、商店街もできるだけ協力するので、動線確保はやっていきたい。

【事務局】

サンポートと商店街の連携の強化は、今回の検討の肝でもあると我々は認識しており、しっかりと議論できるようなデータを揃えて次回ご議論いただきたいと考えている。

琴電との連携については、ウォークアブルなまちをつくっていく中で周遊ということを考えていくと、やはり公共交通をセットにして考えていく必要があると我々も考えている。

【国土交通省四国地方整備局建政部長 井村委員】

歩行者のターゲットは大きく3つに分けられ、旅行として来られる方、通勤・通学でここに来られる方、高松市民等の近隣の住民の方がいると考えており、それぞれが違う動き方をされているのではないかと推察する。

通勤・通学で日ごろから中心市街地に来る人はコアなターゲットとして落としてはいけないと考えている。また、高松市の近くの方も平日でも週末でもお越しいただくにはどうしたらいいのかの検討などが必要であり、来街者のビッグデータから人の流れはこうだったと言っても、複層的なレイヤーがあることをしっかりと認識しないといけない。

【国土交通省四国地方整備局道路部長 荻野委員】

JR高松駅から商店街の方に歩いていこうとすると、大きな幹線道路が南北東西に通っており、そこを渡るのが非常に障害になっていると思う。中心市街地を歩きやすくするということを目指すなかでは、自動車が市内の中心部に入っていないような、車の量を減らさるべく歩行者に道路を取り戻すということを考えていく必要があると考えている。

【国土交通省四国運輸局交通政策部長 坂野委員（代理 片庭交通企画課長）】

JR高松駅が市街地の道に対して少し斜めに入ってくるような形であるので、駅前広場に出たときに、どの方向に歩いていけば商店街に着くのか、初めて来た人にとっては分かりづらくなっている印象がある。また、商店街が非常に広いため、中に入ってしまうと、どこに自分がいるのか、初めて来た人にとっては若干分かりづらい部分があると認識している。分かりやすい案内サインの整備、どちらに向かえば何があるのかということをもう少し工夫できるのではないかと感じている。

【事務局】

来訪者に3つの属性の方がいて、それぞれにニーズが違って、歩き方も違うという件について、我々はビッグデータを分析しようと考えているが、できる限り元データの属性、どういう方なのかを含めて分析できるのであれば、検討したい。

また、通過交通、自動車と人との関係をどう処理していくのかという件については、課題を検討していきたいと考えている。

案内サインについては、分かりやすいサインにするにはどうしていけばいいのかというところも含めて検討していきたいと考えている。

【高松市 創造都市推進局長 次田委員】

現在、高松市では商店街と一緒に音楽イベントの開催や、シンボルタワー開発などの民間企業とJR高松駅前やサンポート地区でさまざまなイベント開催などを実施している。

空間づくりというのはハード面だけではなくて、市民の方、県外の方が来て楽しめるようににぎわいづくりも必要だと思う。今後、プロムナード化に向けて、国・県等、いろいろと連携した取り組みも可能性として考えられるので、ご協力をお願いしたい。

【高松市都市整備局長 板東委員】

基本的な大きな方向性として、公共交通と連携したウォークアブルなまちづくりや、中心市街地の回遊性を図るということで、内閣府の認定をもらう中心市街地活性化基本計画に盛り込んで、国の資本を活用しながら施策事業を展開していこうという大きい方向性は全くそのとおりだと思う。

一方で、番町交差点の社会実験をしていくということになると、タクシー協会やバス協会からご意見のあった交通安全や周辺環境に及ぼす影響などについて、市の方にもすでにいろいろな意見を頂戴している。信頼関係の構築や合意形成などの手続きをしっかりと踏んで慎重に進めていく必要があると思う。

【事務局】

県と市で十分連携した上で、いわゆるエリアマネジメントをしっかりとやりながらにぎわいをつくっていけるような空間をつくっていきたいと考えている。

社会実験については、我々もデータを十分整理したうえで、実際にどのような社会実験ができるのかも含めてしっかり検討した上でご議論いただけるようにデータを整理したいと考えている。

【香川県警察本部交通部長 谷田委員（代理 仲西交通規制課長）】

安全を優先するあまり、規制や信号制御などの考え方がちょっと凝り固まってしまう面がややあると感じている。古川委員から指摘のあった50年、100年先を見据えたような事業であるということなので、安全対策も十分取りながら将来を見据えた交通規制を考えていかなければならないと感じている。

【日本政策投資銀行 佐藤委員】

回遊性の向上について、今回県立アリーナもサンポート地区にできるということで、駅前のにぎわいが非常に出て、これは大変喜ばしいことだと思っている。

一方で、駅前に人の流れが集中するため、いろいろな商業施設も集中してしまい、既存の中心市街地のにぎわいが減ってきた事例は仙台や広島で見られた。どういう属性の人たちの回遊を高めるか、回遊してもらうかという検討が重要であると認識している。

歩行者の回遊性の向上を図るために、車や自転車と歩行者をどこまで分離するかという検討も重要と認識している。そういう意味で、中央通りに人のにぎわいをつくりたいというのは商店街の人のにぎわいを奪い合うことになる可能性があり、番町交差点の立体化のようにして、車で移動しやすいような道路になっているということが果たして良いことなのか悪いことなのか。

【事務局】

交通管理者の警察とも十分連携しながら進めていきたいと考えている。

車と歩行者の分離については、どこまで検討できるか今の段階では不透明ではあるが、回遊性を向上できるような取り組みを我々も検討していきたいと考えている。

【日本大学 中村委員長】

番町交差点の歩行者の平面化については、実際、交通への影響をシミュレーション等や社会実験を通して検討していくと認識している。

プロムナード化の件については、県立アリーナの建設、JR 施設の開業、大学の建設もあることから、サンポート地区の拠点性が非常に大きく高まるタイミングであると思う。その中で、サンポートも含めて高松中心市街地をどのようにしていくのかという大きな視点での方向性を出すことが必要と感じている。一方で、中心市街地の都市構想についての検討も重要であり、いくつかのスポットが有機的につながっていることを目指していくことが必要であり、大きな中心市街地の構造を改めてまとめていく必要があると感じている。中心市街地活性化の計画など、これまで積み上げてきたものも含めて、改めてまちなかの構造を市民、県民の方にお示しし、しっかりと将来を見据えたまちづくりのビジョンを出しながら、一方でデータに基づいた検討も行うといったプロセスが必要と感じている。まちなかの構造のビジョンの検討などを今後の進め方に追加し、並行で議論を進めていけると良いと考える。

また、自動車利用が非常に多い土地柄であり、国道 11 号や中央通りなどは通過交通もかなりあると推察する。その中で、高松環状道路などの将来的ネットワークの整備は進めているがすぐに解決するというものでもない。

都市の形が違うため一概に比較はできないが、福岡では自動車でなるべく来訪しないようにし、公共交通利用を促すキャンペーンを 20 年以上やっておられ、その効果は少しずつ現れてきている。すぐに結果が出るような話ではないが、最初に大きなビジョンを市民・県民と共有したなかで、それに向けてそれぞれ我慢するところは我慢してやっていくような流れにつながるような議論が 5 回目、6 回目、7 回目でできたらよいと考えている。そのため、ビジョンを共有する部分の議論をぜひ加えていただきたい。

その他、委員から意見はないか。

(意見なし)

それでは、今日の意見を踏まえ、次回検討会議に向けた分析をしっかりと進めていただきたい。また、関係者とよく調整・連携して進めていただくようお願いする。